

## 高等学校における実践事例

実践紹介校：仙台商業高等学校

仙台商業高等学校では生徒一人一人の自己実現を目指し、3年間を見通した学年毎の指導の重点を設定し、各教科等との関連付けを図りながら、組織的・系統的なキャリア教育を推進している。その際、地域や企業と連携し実践的に商業について学べる機会を設定したり、生徒に対して適時進路情報を提供し各種資格検定に自ら挑戦できる環境を整備したりするなど、生徒の主体的な学びとなるよう工夫している。

### <実践内容>

#### ○3年選択科目「商品開発」での取り組み

これまでは商品の立案までとしていた学習を、実社会とのつながりを生徒が実感することができるように令和3年度に地元企業と連携して、商品化し販売するまでの活動に見直し実践した。商品開発に当たっては、まず、開発テーマを生徒自身に考えさせ、社会にある課題の解決や地域貢献につながるような商品開発をしたいという思いを高めた。また、商品化の事前学習として、地元企業によるデザインや消費者についての講話を設定し、課題を解決するために必要な知識等を生徒自らで獲得していくように進めた。それらの学習が功を奏し、商品化する段階では、商品の材料やパッケージのデザイン、販売場所など細部にこだわって考えるなど主体的に取り組んだ。最終的には、専門メーカーに委託して商品を製造し販売するところまで体験したことで充実感や達成感を学びと共に大いに味わえる学習となった。



外部講師による講義の様子



地域での販売実習の様子



生徒が考案したデザイン

#### ○商業情報部での取り組み

商業情報部は、仙台経済圏における産業・経済の活性化と地域社会貢献を目指し活動してきた。また、商業の学びを実践する場、「あきない屋」を運営している。

平成21年度は本校開校の年であり、「記念的商品」「新たな地域ブランドの創造」を目指した。当時の部員が仙台には「地サイダー」が無いことに着目し、「仙臺サイダー」の企画・商標登録・原価計算・広告・販売までの一切を手掛けた。商標登録したデザインを商品に使用し、メーカーから商標使用料を受領するというこのモデルは「仙台ベコタンカレー」(平成28年)、「じく旨キーマカレー」(令和3年度)の先駆けとなった。収益の一部は「SENDAI光のページェント」、「東日本大震災の復興支援」、「フードバンク仙台」に寄付し、運営を支援するための活動を続けている。

このように共同開発や寄付活動など企業や地域の方との接点も多く、「学習意欲」「コミュニケーション力」の向上に繋がっている。また、調査研究の活動内容・成果を各種大会で発表しており、「プレゼンテーション力」も身に付き、その成果として「仙台若者SDGsアワード2022」で最優秀賞を受賞した。企業との提携で開発中のパンは5月の販売予定となっており、生徒が直接販売会を実施する計画もある。今後は、さらに勤労観や職業観をしっかりと身に付けることが出来るような取り組みの充実を考えていきたい。



開発商品の一部



一番町での販売



活動内容・成果の発表